かまいし市議会だより 第186号
令和8年11月1日発行
■発行／釜石市議会
■編集／釜石市議会だより編集特別委員会
〒026-8686 岩手県釜石市天神町5-20 ☎0193-52-0117（直通）
fax0193-22-3710 E-mail：gikaijimu#city.kamaishi.iwate.jp（#を@に）

特集　釜石まつり

# 曳き船まつりに活気が戻ってきた

釜石まつりの呼び物の一つ、曳き船まつり。尾崎神社の神様を船で迎えに行く海上渡御として、長く受け継がれています。

北海道・知床で起きた観光船事故の影響などから、昨年は船に乗れる人数が制限され、船上で郷土芸能を披露する人数も大きく減りました。今年は船体を検査し、安全を確認した上で乗船人数を増やし、曳き船にかつての活気が！

そこで、錦町青年会さんと東前青年会さんにお話をうかがいました。

「最低でも30人から40人くらいは必要。太鼓を叩く人や、笛を吹く人、踊る人だけでなく、船の上では踊る人を支える人も必要なんです」と話すのは、錦町青年会の熊谷勇哉さん。昨年は「この人数では本来のものはできない」と、あえて船上で踊りませんでした。

東前青年会の笹山将人さんも、人数制限によって、子どもたちによる七福神を船に乗せることができなかったと振り返ります。

二人が願っていたのは、ただ大勢で船に乗ることではありません。

「自分たちは船に乗って、みんなで神様を迎えに行く。そこに意味があるんです」

子どものころ、先輩たちの姿を見て「あそこで踊りたい」「太鼓を叩きたい」と憧れた二人。今は自分たちが、その姿を子どもたちに見せる番です。

「いつか自分もあの船に乗りたい」

そう思えるような、堂々とした曳き船の姿が、釜石の海に戻ってきました。



奥が東前青年会の笹山将人さん、手前が錦町青年会の熊谷勇哉さん



多くの方々にご協力をいただいた復元性検査の様子

**【注記】**曳き船まつりでは、知床の観光船事故を契機に安全確認が厳格化され、乗船人数が制限されていました。今年は船の復原性などを確認する検査に合格し、祭り当日に限り、旅客40人、船員6人の計46人まで乗船が認められました。